

## 6. 学術情報センター

学術情報センター長	南沢 享（細胞生理学講座）	（2016年4月から）
学術情報センター図書館国領分館長	内田 満（看護学科）	（2022年4月から）
学術情報センター標本館長	岡部 正隆（解剖学講座）	（2022年4月から）
学術情報センター国際交流センター長	南沢 享（細胞生理学講座）	（2022年4月から）

### 1) 2021年度統計（2022年4月1日～2023年3月31日）

#### (1) 図書館

① 蔵書冊数	262,656冊
② 現在受入雑誌数	557種（和491種、洋66種）
③ 電子ジャーナル提供数	9,887種
④ 館外貸出冊数	5,021冊
⑤ 入館者数	44,226名
⑥ 他学との文献相互貸借数	貸出1,056件 借受1,070件
⑦ 複写サービス	8,245枚（代行複写、国領・葛飾・第三・柏へのFAX送信、相互貸借（他館））
⑧ 情報検索サービス	100,928件（代行とセルフサービスの合計）
⑨ 所蔵視聴覚資料	ビデオ・プログラム 926セット
	スライド・プログラム 5セット
	16mm フィルム 37セット
	語学プログラム 206セット
	その他 53セット

#### (2) 国領分館

① 蔵書冊数	90,907冊
② 現在受入雑誌数	183種（和146種、洋37種）
③ 館外貸出冊数	2,834冊（視聴覚資料含む）
④ 複写サービス	186件（西新橋・葛飾・柏へのFAX送信相互貸借（他館））

#### (3) 標本館

① 所蔵標本数	マクロ標本 1,821点
	顕微鏡標本 2,549点
② 見学者数	489名（学内41名、学外448名）

#### (4) 史料室

① 所蔵史料	3,163点
② 見学者数	11名（学内 4名、学外 7名）

#### (5) 写真室

① 撮影・スライド作成	121件（3,569枚）
② ビデオ編集	84件（837時間）
③ カラープリント出力（ポスター作成含む）	306件（4,905枚）
④ 35mm スライドのデジタル化	2件（969枚）

#### (6) 国際交流センター

##### ① 海外選択実習

派遣 医学科生 12名 看護学科生 0名

受入 医学科生 11名 看護学科生 2名

※海外選択実習に選考されたがコロナ禍により渡航できなかった学生のうち、3名がプライマリケア・選択学外臨床実習として渡航できた。

- ② 海外からの選択実習生による成果報告会  
開催：5回 ※4回は対面とZoomによるハイブリッド開催

## 2) 主な事項

### (1) 教育・研究年報に関すること

- ① 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2021年度版（第41号）』、『Research Activities』の編集  
前年より『教育・研究年報』は、研究業績の項目種類と掲載件数を増やし、プリント版を中止してPDF版のみの発行となり、2022年12月に発行された。  
『Research Activities』は、数年に1回の発行とし、図表を交え本学の研究活動を簡潔に紹介する形式に変更し、2022年10月に発行された。

### (2) 図書館システムの管理に関すること

- ① 図書館システムの運用  
8月にバージョンアップがあり、提供元の株式会社リコーの担当者と各種調整を進めた。バージョンアップにより、更新内容が即日反映されるようになった。2021年度に引き続き、入館者数管理に図書館システムの機能を活用した。

### (3) 図書・雑誌等の情報管理、情報サービスに関すること

- ① ネットワークを介した情報提供  
電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するAutoAlertサービスを継続している。また、新聞（全国紙）4紙から医療及び大学関係の記事の見出しを学内約90部署に電子メールで配信するサービスも継続した（2004年12月開始）。学内への新聞記事見出し配信について、商用サービスの利用を含めた他の方法への変更案も出されたが、広報課との協議の結果、当面は現状の学術情報センターからの配信を継続することとなった。

国領分館での電子ブックの予算確保は定着し継続して購入できた。また遠隔授業教材として2021年度に医学科教員より希望のあった化学書資料館IPとEducational video onlineシリーズの終わりのない生命の物語も継続契約となった。2023年外国雑誌については契約時期の2022年10月の円安が著しく、雑誌の購読中止と図書購入予算など他科目予算の減額が必要となった。

- ② リモートアクセスサービスの提供  
大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナル、データベースを学外（自宅や派遣先）からアクセスするための「リモートアクセスサービス」（2009年度開始）の利用者登録とサポート作業を継続した。一部の登録データの外部漏洩の可能性について学外より指摘を受けたため、システム課と協議の結果、図書館委員会の承認を得て、利用者登録の更新を行った。2022年度の登録者は更新および新規合わせて2,598名であった。

- ③ 大量ダウンロードによる電子ジャーナルの利用停止  
国内電子ジャーナル約1,400誌のパッケージであるメディカルオンラインの利用において、同一誌から規約で定められている制限を超えたダウンロード（大量ダウンロード）が頻発したため、規約違反が生じた際に該当利用者を特定して連絡することができるようにするために、2021年度からメディカルオンラインへの接続はID/パスワード認証とすることとした。2022年度は大量ダウンロードは発生しなかった。

### (4) 利用者支援・指導に関すること

- ① メディカルライティングオフィスの設置  
学内における論文作成支援体制を強化することを目的として、学術情報センター内の医学英語研究室がメディカルライティングオフィスに改組され、英語による論文作成の相談窓口を担当することとなった（定例理事会（2021年9月30日）認可）。メールでの問い合わせが英文添削6件と校閲証明書発行が1件あった（医学科学生1名、看護学専攻

5名、医学科大学院1名)。

② 医学部学生の演習の担当

医学科1年生の「情報検索演習はeラーニング、3年生「医学統計学Ⅱ演習」は対面で2グループ×1回実施した。看護学科1年生の「総合演習」、3年生の「研究方法論：文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーションを担当した。なお、いずれもeラーニングによる実施となった。

③ 教職員等を対象とした情報検索演習

例年開催している教職員を対象としたデータベース講習会は、対面で密を避け2回実施した(5月23日～28日、11月14日～11月19日 参加者11名)。

臨床意思決定支援システムUpToDateのオンラインセミナーを提供元のウォルターズ・クルワー社の担当者と企画、開催した(4月25日、28日、5月18日、26日、6月28日、29日、参加者57名)。UpToDateのユーザー登録会は対面とオンラインの両方で実施した(10月31日、11月8日 新規登録者53名、再登録者21名)。

④ 医学論文書きかた講習会の開催

Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による講習会を企画した。大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」を兼ねた公開講義であるため、講習内容のeラーニングシステムへの登録は学事課にて対応した。2021年度と同じ4名の講師からの講習は4月23日から3月末まで受講可能であり、受講者は全体で118名であった。

- ・「医学論文の書きかた講習会」  
志賀 剛教授(臨床薬理学講座)
- ・「医学論文書きかた講習会」  
吉村道博教授(内科学講座)
- ・「Choosing the Right Words: For Clarity and Continuity」  
岡崎真雄教授(学術情報センター医学英語研究室)
- ・「How to write a medical research paper」  
アラン・ハウク 教授(英語研究室)

(5) 総合展示に関すること

① 総合展示の開催(退任教授による特別発表)

ポスター展示とeラーニングによるオンライン公開の両方でのハイブリッド開催とし、eラーニングによるオンライン公開には、372名の学生、教職員からのべ455回の閲覧があった。ポスター展示

開催期間：2023年1月23日(月)～2月4日(土)

会場：高木会館1階ロビー/大学1号館1階ロビー

eラーニングによるオンライン公開

開催期間：2023年1月23日(月)～3月18日(土)

- ・「脳腫瘍から医工連携へ」  
馬目佳信教授(基盤研究施設)
- ・「視神経疾患と向き合って41年」  
敷島敬悟教授(眼科学講座)
- ・「腎臓病・宇宙航空医学・総合診療・臨床倫理への道のり」  
三浦靖彦教授(内科学講座(総合診療内科))
- ・「Mentorship and Scholarship in Cardiac Surgery: Lessons Learned from Forty-Year Experience」  
坂東 興教授(心臓外科学講座)
- ・「高血圧を考える」  
関 晋吾教授(内科学講座(循環器内科))

- ・「置かれた場所で咲くために－研究の自分小史」  
島田 貴教授（内科学講座（腫瘍・血液内科））
- ・「胃癌術式の評価と胃切除後障害の克服に向けた取り組み」  
中田浩二教授（臨床検査医学講座）

(6) 画像データ等コンピュータ・サービスに関すること

① 教材・研究資料の作成支援

学生・教職員、同窓生を対象として、静止画・動画の撮影、画像データのデジタル編集、ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化の各サービスを実施した。学会開催再開に伴い、ポスター作成は272件であった（2019年度584件、2020年度57件、2021年度93件）。また、公的行事、各種セミナーのリモート開催に伴い、ビデオメッセージ、YouTube配信動画、eラーニング教材の撮影及び編集を担当した。

(7) 学術リポジトリに関すること

① 学術リポジトリの運用

本学発行物（『東京慈恵会医科大学雑誌』（慈恵医大誌）、『Jikeikai Medical Journal』（JMJ）、『教育・研究年報』、『Research Activities』）の掲載記事、本学の歴史に関する出版物、本学教員学術論文（学外発行誌掲載含む）の学術リポジトリへの登録を担当した。2022年度の学術リポジトリへの登録は104件（JMJ・慈恵医大誌のみ）、閲覧は77,167件であった。

② 学位論文に関する著作権調査

学位論文に係る著作権処理（学位論文の学術リポジトリ登録に係る著作権処理を含む）についての問合せへの対応を担当した。

(8) 広報活動支援に関すること

① 本学教員の研究業績公開

研究推進課、広報課、その他関連部署との連携により、教員ごとの研究実績をresearchmapを利用して公開することに関して、学術情報センターは、researchmapへのデータ入力に関する問合せへの対応を担当した。

② 学内行事の写真撮影

学内の各種行事の写真撮影を担当した。また、撮影した写真を広報活動で活用できるように、写真画像データを保管し、提供した。

(9) 国際交流センターに関すること

① 海外での学習、発表等に対する奨学金や助成金の支給に関する業務を担当した。

・学外研究員 2022年度選考者 1名349万円

2023年度学外研究員について、国際交流センター運営委員会にて選考した候補者と選考過程を学長に報告し、学長により決定された。

② 海外選択実習生成果報告会を12月23日に大学1号館講堂（3階）で開催した。海外協定校で実習を行えた3名による発表が行われ、8名の審査委員により1名の優秀賞が選ばれた。

(10) その他学術情報センター業務に関すること

① Turnitin Feedback Studioの利用

剽窃・盗用防止の意識を高めることを目的として、2016年度に大学にて導入されたオリジナルライティング教育支援ツールTurnitin Feedback Studioに関して、医学科・看護学科の授業における利用のサポート、学内教員の利用登録を担当した。

② 図書館環境整備について

図書館内の無線LAN（Wi-Fi）の電波を強化するため、館内のアクセスポイント交換工事を2月に実施した。

グループ学習室の利用再開にあたり、空気清浄機3台とアクリル板を設置した。

③ 高木会館 4 階の学生利用

6 月から高木会館 4 階 3 室を学生学習スペースとしたほか、9～11月は2室を医学科2年解剖学実習時の更衣室として利用した。なお、感染対策として、1月25日から3室の学生学習スペース利用を中止した。

④ 史料室展示ケース内の展示物のカビ対応

史料室に展示されていたパネル類にカビが発生したため、9～12月に撤去、複製し、3月までに展示した。10月19日に史料室内に産業用除湿器を設置したほか、11月に温湿度計の追加購入および展示室内への設置、展示室内の消毒、清掃を行った。

⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う開館時間、利用条件の変更

図書館（西新橋本館）：

7月8日以降

グループ学習室（1階閲覧室）の学生の利用人数を1～4名とした。

※ 個室はこれまでどおり1名での利用

図書館（国領分館）：

4月1日以降（2021年10月1日から継続）

月～金 9：00～20：30（通常9：00～20：30）

土 9：00～17：30（通常9：00～17：30） 日 閉館（通常日 閉館）

※ 10月1日以降、授業関連という条件付きで研修室利用を再開。

※ 2021年7月1日以降は学生の来館事前予約は不要を継続。

標本館：見学は事前予約制（1時間ごとの入館で、1回につき10名未満のグループ）

写真室：受付 月～金 9：30～17：00（通常 月～土 9：00～17：30）

史料室：見学は事前予約制、7月～1月 展示パネルデジタル化のため休室とした。